

平成 27 年度 第 4 回 沖縄県がん診療連携協議会議事要旨 (案)

日 時 平成 28 年 2 月 19 日 (金) 14:00～16:57
 場 所 琉球大学医学部 管理棟 3 階 大会議室
 構 成 員 36 名 出席者 25 名 欠席者 11 名

1 号委員 (琉大病院長)	藤田 次郎	
2 号委員 (県立中部病院長)	上原 元 (代理)	朝倉 義崇
(那覇市立病院長)	照喜名 重一 (欠席)	
3 号委員 (県立宮古病院長)	上原 哲夫 (欠席)	
4 号委員 (北部地区医師会病院長)	諸喜田 林	
(県立八重山病院長)	依光 たみ枝	
5 号委員 (沖縄県医師会長)	宮城 信雄 (欠席)	
6 号委員 (沖縄県歯科医師会長)	比嘉 良喬 (欠席)	
7 号委員 (沖縄県薬剤師会長)	亀谷 浩昌	
8 号委員 (沖縄県看護協会会長)	仲座 明美 (代理)	與儀 とも子
9 号委員 (沖縄県政策参与)	新垣 義孝 (欠席)	
10 号委員 (沖縄県保健医療部長)	仲本 朝久 (欠席)	
11 号委員 (がんセンター長)	増田 昌人	
12 号委員 (医療福祉支援センター長)	藤田 次郎	
13 号委員 (琉大薬剤部長)	中村 克徳 (代理)	外間 惟夫
14 号委員 (琉大看護部長)	下地 孝子 (代理)	小渡 清江
15 号委員 (琉大事務部長)	深澤 博昭	
16 号委員 (県立中部病院副病院長)	本竹 秀光 (欠席)	
(県立中部病院血液腫瘍内科部長)	朝倉 義崇 (代理)	新屋 洋平
(那覇市立病院外科部長)	友利 寛文	
(那覇市立病院外科部長)	宮里 浩 (欠席)	
17 号委員 (県立宮古病院外科部長)	松村 敏信	
(県立宮古病院副看護部長)	小禄 範子	
18 号委員 (北部地区医師会病院看護部長)	柴山 順子	
(県立八重山病院看護部長)	上盛 厚子	
19 号委員 (沖縄県がん患者会連合会)	田仲 康榮 (代理)	安里 香代子
(がんの子供を守る会沖縄支部代表)	片倉 政人	
(公益社団法人日本オースティン協会沖縄支部長)	大城 松健	
(ゆうかぎの会(離島におけるがん患者支援を考える会)会長)	真栄里 隆代	
20 号委員 (東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット特任教授)	埴岡 健一	
(沖縄タイムス社会部副部長待遇)	儀間 多美子 (欠席)	
(特定非営利活動法人グループ・ネクス理事長)	天野 慎介 (欠席)	
21 号委員 (琉大病院歯科口腔外科長)	新崎 章	
(琉大病院病理部長)	吉見 直己	
(琉大病院第一外科長)	西巻 正	
(琉大病院骨髄移植センター長)	百名 伸之 (欠席)	
陪席者	琉大病院がんセンター特命助教	井岡 亜希子
	がん登録部会長	仲本 奈々
	緩和ケア部会長	笹良 剛史
	普及啓発部会長	長井 裕

冒頭

1. 感謝状授与

藤田議長から、株式会社宮平乳業 代表取締役社長 宮平隆雄氏(同社取締役が代理出席)に対して、感謝状の授与があった。

2. がん検診啓発ポスターコンテスト表彰式

藤田議長から、がん検診啓発ポスターコンテストについて、次のとおり表彰状の授与があった。

賞	学校名	学年	氏名
最優秀賞	沖縄県立知念高等学校	3年	玉城 亜門
優秀賞	那覇市立上山中学校	2年	城間 紗里衣
	南城市立大里中学校	2年	仲吉 菜々子
アイデア賞	沖縄市立山内中学校	1年	幸地 純矢
	宮古島市立上野中学校	3年	西里 琉夏

議事要旨・議事録・委員一覧

1. 平成27年度第4回沖縄県がん診療連携協議会議事要旨(平成28年1月18日開催)

増田委員(11号委員)から、資料3の第4回幹事会議事要旨(平成28年1月18日開催)の確認があった。訂正等が必要な場合は、各委員から事務局へ申し出ることとした。

2. 平成27年度第3回沖縄県がん診療連携協議会議事要旨(平成27年11月13日開催)

増田委員(11号委員)から、資料4の第3回協議会議事要旨(平成27年11月13日開催)の確認があった。訂正等が必要な場合は、各委員から事務局へ申し出ることとした。

3. 平成27年度第3回沖縄県がん診療連携協議会議事録(平成27年11月13日開催)

増田委員(11号委員)から、資料5の第3回協議会議事録(平成27年11月13日開催)の確認があった。訂正等が必要な場合は、各委員から事務局へ申し出ることとした。

4. 協議会・幹事会・部会委員一覧

増田委員(11号委員)から、資料6に基づき、前回から委員の変更等はない旨報告があった。

有識者報告事項

1. 埴岡委員報告

埴岡委員(20号委員)から、資料7に基づき、都道府県別・がん種別の死亡率、改善率などについて詳細な説明があり、沖縄県のがんに関する分析としては、胃がんは全国中で最も死亡率が低く改善率も高いが、大腸がんと乳がんがワースト順位で高位置にあり懸念される。そして、それらの原因として罹患率が高いから予防を強化すべきなのか、生存率が低いから早期発見や治療成績の向上を図る必要、又は医療資源の不足を補う必要があるのか、このようなデータ解析が今後必要となる旨の発言があった。

また、今後の具体的な改善策として、沖縄県のがん登録集計が拠点病院のみならず16病院に拡大しているので、解析をしつつ更にカバー率を上げる取組が必要であること。急速な悪化となっているがんについては、協議会として何ができるか見直し、取り急ぎ対策に取り組む必要があるとの提案があった。

次いで、各委員から主に以下のような意見等があった。

・西巻委員(21号委員)

基本的な判断基準として、ステージIは治癒する、ステージIVは治癒しないとなるが、沖縄県はステージ0が統計上で非常に少ない。これは早期発見がなされていない又は検診について

の啓蒙が不十分なのかという点がありポイントと考えている。

・片倉委員（19号委員）

資料にあるように、大腸がんの登録が16病院ある一方で、ステージ別登録数は拠点病院のみであることから、今後はデータの統一性を図った上で更なる解析を望む。

→ 増田委員（11号委員）：今後16病院のデータが収集されることから、拠点病院以外の病院もがん種ごとの5年生存率、ステージごとの傾向も判明してくるであろう。

・真栄里委員（19号委員）

沖縄の現状はワーストが多いため、どこに問題があるのか突き止め、ワーストストップ対策の委員会等組織し、患者会もチームとして参画させていただきたい。

・藤田議長

疾病の構造が欧米のものと酷似しており、このことも対策する上でのヒントと考える。

・田中委員（19号委員）代理（安里香代子氏）

消化器の領域で見えていくと、離島・中部で大腸がん患者が多いようであるが、離島のがん患者においては、滞在費などの捻出が難しく、治療を中断、断念している方が多いと伺っており、このようなこともワーストとなる原因と考える。医療機関同士の更なる連携が必要であるが、今後どのような支援が必要と考えているかお聞きしたい。

→ 松村委員（17号委員）：宮古で言えば、現状として進行がんの患者が多い。今回示されたようなステージ別のデータ等が今後出てくるかと思うが、これらを突き詰めていくと根本的な対策ができるものとする。

→ 依光委員（4号委員）：八重山では化学療法で症例数が増えており、このことから本島医療機関とも連携ができていると考えている。

・吉見委員（21号委員）

今回の統計数値だけで見えていくと、死亡率などが高い傾向となっており、患者の不安を煽るようなこともある。数値の取扱には注意が必要である。

・埴岡委員（20号委員）

今後、カバー率が高まることにより統計が明確になるが、その前にも何らかのアクションは必要と考える。

・真栄里委員（19号委員）

宮古における化学療法が少ない。なぜ受けていないのか。

→ 松村委員（17号委員）：このデータに出ていないだけであり、宮古病院には専従の医師も配置され実績もある。

・片倉委員（19号委員）

がん診療を行う病院の機能情報に関する統計において、在宅療養又は後方支援の届出がなされていない病院が多いがその理由はなぜか。

→ 藤田議長：この会議中では回答できないため、調査の上、次回報告することとしたい。

・吉見委員（21号委員）

乳がんについては、16病院以外での診療実績も多く十分には捕捉できていない。更にクリニックなどのデータもカバーしていただきたい。

審議事項

1. 平成28年地域相談支援フォーラムin沖縄開催について

増田委員（11号委員）から、資料8に基づき説明があり、平成28年度は沖縄で開催するこ

と及び各病院の相談支援担当部署にも運営に参加いただくことの協力依頼があった。

2. 平成28年度の協議会・幹事会の開催日時について

増田委員（11号委員）から、資料9に基づき、大きい学会を外しての設定であるが、各委員においても都合を確認いただき、その後の結果をもって変更について検討する旨の説明があった。また、県の委員にも出席いただき、今後の予防や検診について議論すべきと考えることから、県議会の日程も外す方向で県とも調整する旨の発言があった。

3. 緩和ケア部会「平成27年度事業計画評価」について

新屋副部会長から、資料10に基づき説明があり、2年目以降の研修医受講100%を目指す観点から、次年度は緩和ケア研修会開催回数を増やすことを検討していること、施策アクションプラン「苦痛の評価を行い改善する」中のアウトプット目標「気持ちのつらさに対応していく（評価：3点）」は県立中部病院でも一部開始した旨の説明があった。

次いで、田中委員（19号委員）代理（安里香代子氏）から、「10点」という評価に関連し、これは医療者目線での評価か、緩和ケアに対する認識については多くの患者等が認識できてない現状をどう考えているか、自宅での訪問看護については評価対象に入っていないが、評価として実際どう考えているか質問があった。

1点目と2点目に対し、新屋副部会長からは、患者の視点は大事だが、それを現時点で部会において反映させることは難しいことであり、このたびの中間評価における患者アンケートをどのように活かすかが検討課題と考えていること。3点目の在宅医療・訪問看護については、県内の実績としては積み重ねがあまりない状況と考えられるが、今後緩和ケア部会においてどう取り扱うかを部会にて検討していきたいとの発言があった。

また、埴岡委員（20号委員）からは、緩和ケアについての患者視点（患者アンケート）と医療者の評価については、資料159ページにあるような施策・指標マップ、これをベースに進めていけば解決するのではないかと発言があった。

その他、緩和ケアに関連して以下のとおり質疑等があった。

・田中委員（19号委員）代理（安里香代子氏）

クリティカルパスというものがあるが、離島や北部へ帰る患者について、機関同士が連携した治療を受けてない。緻密な連携が必要にも関わらず進んでいないのは疑問である。また、「看取り」について項目を立てているのは、推奨する観点からなのか。

→ 新屋副部会長：クリティカルパスが普及してない、共有できてないのは現状としてある。

「看取り」については、自宅での看取りを誘導している訳ではなく、例えば施設で最期を希望する事例も多く、その場合の施設の負担をいかに軽減していくか、そういうことも含めて「看取り」を指標としている。

→ 藤田議長：緩和ケア部会において、患者目線をどのように含めていくか検討いただきたい。

→ 増田委員（11号委員）：今回の中間評価において客観的指標は難しく、アンケートで課題を見つけていくことも必要であり、継続してこのような取組を行っていく必要がある。

・依光委員（4号委員）

緩和ケア研修の修了証は、なぜ医師だけなのか伺いたい。

→ 増田委員（11号委員）：厚生労働省の立場としてはあくまで医師のみであり、それが診療報酬上の加算にも係るためとしている。主催病院によっては、アンオフィシャルでコメディカルにも修了証を交付していると聞いている。

4. がん登録部会「平成27年度事業計画評価」と「平成28年度の事業計画」について

仲本部会長から、資料11に基づき説明があった。

5. 研修部会「平成27年度事業計画評価」と「平成28年度の事業計画」について

増田委員（11号委員）から、資料12に基づき説明があった。

6. 相談支援部会「平成27年度事業計画評価」と「平成28年度の事業計画」について

増田委員（11号委員）から、資料13に基づき説明があった。

7. 地域ネットワーク部会「平成27年度事業計画評価」と「平成28年度の事業計画」について

増田委員（11号委員）から、資料14に基づき説明があった。

田中委員（19号委員）代理（安里香代子氏）からは、クリティカルパス研修会において「参考になった」「パスを使って見たい」というアンケート結果であり、これから課題に取り組むのに10点という評価は腑に落ちないとの意見があった。これに対し、埴岡委員（20号委員）からはアウトプットとアウトカムの2つについて評価することで、分けることが望ましいこと。これらは全部会の共通課題として認識し、施策・指標マップによりアウトプットとアウトカムの調和を図ることが必要であるとの発言があった。また、増田委員（11号委員）からは、県（中間評価）のロジックモデルと部会のロジックモデルの整合性も図る予定である旨の説明があった。

8. 普及啓発部会「平成27年度事業計画評価」と「平成28年度の事業計画」について

長井部会長から、資料15に基づき、特に教育関係者の理解が深まってきており、研究授業の開催も決定した旨の説明があった。

9. PDCAサイクルの確保について

増田委員（11号委員）から、資料16に基づき、拠点病院の指定要件となっていること及び国立がん研究センターの勉強会に琉大病院及び県の担当者が出席した旨の報告があった。なお、次年度の相互訪問実施についても継続審議としたい旨説明があった。

報告事項

1. 2月6日（土）がん啓発イベント：今知っておきたい！「がん」のコトの開催について

朝倉委員（上原委員（2号委員）代理）から、資料17に基づき報告があった。

2. HBOC（遺伝性乳がん卵巣がん症候群）を中心とした診療の準備の開始について

朝倉委員（上原委員（2号委員）代理）から、窓口を設置した旨の進捗報告があった。

3. 「全国がん登録」施行に向けた沖縄県の取組状況等について

増田委員（11号委員）から、資料18に基づき報告があった。

4. 沖縄県がん対策推進計画（第2次）の中間評価について

増田委員（11号委員）から、資料19に基づき、患者・医療者アンケートを含めた進捗状況報告があり、この3月に県へ本案を提出し、6～7月開催の「がん対策推進協議会」で審議予定であることの説明があった。また、各委員に対し、資料を確認いただき、意見等がある場合は、事務局へ申し出てくださいたい旨協力依頼があった。

吉見委員（20号委員）から、肝臓がんについて、全国では肝炎ウィルスベースであるが沖縄では生活習慣病をベースとした脂肪肝であり本質的に異なるので、この実情も勘案すべきとの意見があった。

5. 沖縄県のがん登録 2013年症例と2011年罹患（院内がん登録報告書）

増田委員（11号委員）及び高橋（沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター）職員から、資料20に基づき進捗報告があった。これに対し、松村委員（17号委員）からは、ステージ別の予後が病院の真の評価であり、死亡率だけでは図れないことを踏まえて欲しいこと、埴岡委員（20号委員）からは、今回から16病院ということでカバー率が上がり前進したが、今後はデータの括り方の検討も必要であるとの説明があった。

6. 協議会における基本審議事項のスケジュール（年間カレンダーについて）

増田委員（11号委員）から、資料21に基づき、沖縄県の予算編成時期を考慮した協議会に

おける基本審議事項のスケジュールについて、中間報告の意味合いも含め提示する旨の説明があり、県との更なる連携や協議を促進するためには必要な考えであるとの発言があった。

7. 平成27年度地域相談支援フォーラムin鹿児島について

増田委員（11号委員）から、資料22に基づき報告があった。

8. 離島医療圏のがん対策に関するタウンミーティングについて

増田委員（11号委員）から、資料23に基づき報告があった。

9. 第17回 沖縄県のがん対策に関するタウンミーティングについて

増田委員（11号委員）から、資料24に基づき報告があった。

10. 沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センターの活動報告について

増田委員（11号委員）から、資料25及び別刷り資料に基づき報告があった。

11. 沖縄県統括相談支援センターの活動報告について

増田委員（11号委員）から、資料26に基づき報告があった。

12. 国がん対策推進協議会

増田委員（11号委員）から、資料27に基づき報告があった。

13. 第7回予防接種・ワクチン分科会

増田委員（11号委員）から、資料28に基づき報告があった。

14. 第16回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会

増田委員（11号委員）から、資料29に基づき報告があった。

また、真栄里委員（19号委員）からは、昨年12月に救済措置に関する厚労省通知があったと聞いてはいるが、周知方法等について疑問があり、県はどう取り組んでいくのか見えない状況であることから、確認して欲しい旨の要請があった。このことについては、確認の上、真栄里委員へ直接報告することとした。

15. 第7回がん登録部会

増田委員（11号委員）から、資料30に基づき報告があった。

16. ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に症状が生じた方に対する相談窓口設置に係る説明会

増田委員（11号委員）から、資料31に基づき報告があった。

17. がん検診のあり方に関する検討会中間報告書

増田委員（11号委員）から、資料32に基づき報告があった。

部会報告事項

1. 緩和ケア部会

笹良部会長から、資料33に基づき報告があった。

2. がん登録部会

仲本部会長から、資料34に基づき報告があった。

3. 研修部会

増田委員（11号委員）から、資料35に基づき報告があった。

4. 相談支援部会

増田委員（11号委員）から、資料36に基づき報告があった。

5. 地域ネットワーク部会

増田委員（11号委員）から、資料37に基づき報告があった。

6. 普及啓発部会

長井部会長から、資料38に基づき報告があった。

また、琉大病院外来ロビーにおけるがん検診啓発ポスターの展示について周知があった。

7. がん政策部会

埴岡部会長から、資料38に基づき報告があった。

8. その他

大城委員（19号委員）からストーマ導入の基準や件数について質問があり、松村委員からはステージにより術式が変わることや大腸がんの位置と肛門との距離など患者の状態に応じた判断となること及び実際の導入件数は把握できていないことの説明があった。また、増田委員からはDPCデータにより件数を割り出すことができる可能性もあるが、一時的・永久的な導入なども含めて詳しく調べられるかは不明であり、可能な限り努力したい旨の発言があった。